

平成30年度草の根・人間の安全保障無償資金協力
「ジェラシュ・パレスチナ難民キャンプ内医療センター医療機材整備計画」
医療機材供与式典

2020年1月27日、日本政府の草の根人間の安全保障無償資金協力の枠組みにより実施された「ジェラシュ・パレスチナ難民キャンプ内医療センター医療機材整備計画」のための医療機材供与式典が実施されました。

本計画は、1990年の設立以来、継続的にパレスチナ難民への医療支援を実施してきた実績のある NGO「ヨルダン・パレスチナ医療援助機関」(MAP JORDAN)に、同団体が運営するジェラシュ・パレスチナ難民キャンプ内医療センターへX線撮影装置、心臓超音波検査機器、ECG及び耳鼻咽喉科診察ユニットを配備することにより、ジェラシュ・パレスチナ難民キャンプ内及び近郊住民(主にパレスチナ難民、シリア難民及びヨルダン人貧困層)への医療サービスの質の向上に寄与することを目的としています。特に心臓超音波検査機器は、ジェラシュ・パレスチナ難民キャンプが位置する地区にある医療施設としては初の導入であり、心臓疾患の早期発見に繋がることが期待されます。また、X線撮影装置は、同医療センターが連携している、UNRWA(国際連合パレスチナ難民救済事業機関)が運営する同キャンプ内の医療センターの患者も利用する予定です。

同式典では、荒池日本大使館次席よりムフレ・アケル財務担当役員へ医療機材を供与し、出席者からは、日本の支援に対する感謝の言葉が述べられました。

荒池次席の挨拶



X線撮影装置の供与



供与された心臓超音波検査機器



ジェラシュ・パレスチナ難民キャンプ内
UNRWA医療センターの視察

